桜スポーツ映画シリーズ

コミュニティの中でスポーツを！

続「生活の中のスポーツ」

文部省選定　チュニジア国際スポーツ映画祭

教育映画祭優秀作品賞　青年スポーツ大臣賞(第一位)

スポーツクラブ

——明るく豊かな生活のために

企画・製作　株式会社桜映画社
協力　垂水区団地スポーツ協社
東村山市教育委員会

社会教育映画　カラー29分　180,000円

□製作意図

多くの人達の間で、スポーツ欲求が高まっている現在、身近な生活の中で継続してスポーツをとり入れるためのシステムとして、スポーツクラブが注目されてきています。

この映画は、あるスポーツクラブの活動をとりあげて、その具体的な例を手がかりに、スポーツクラブとは何か、何を目ざすものかを考え話しあう問題提起の形をとっています。

このスポーツクラブは、六つの団地にまたがって住む人達の間で結成されたものですが、団地という単位にとらわれず、スポーツをしたいという自発的欲求を集めて活動しています。その点で、どんな地域にすむ人達にも共通した多くの問題に直面し、協力してそれらを解決していく過程は、スポーツクラブを考える上に、大いに参考となるでしょう。

この映画は、体力づくりからコミュニティづくりへと、スポーツの効用の多面性を解説した映画「生活の中のスポーツ」の続編として、自主企画したものです。

□紹介のことば

文部省体育局長　柳川覚治

この映画は、51年度に社会体育優良団体として文部大臣表彰を受賞した兵庫県垂水区団地スポーツ協会を具体例としてクラブの施設の確立、指導者のあり方、プログラムの多様性などクラブ設立のための主要条件を実際の活動を追いかけながら明快に語っている。

各地域で行なわれているスポーツクラブの育成のために努力する人達が、そのシステム確立のため、どのような諸条件を整えていったらよいかを話し合っていくときに、大変示唆に富み、参考となる内容をもったものといえよう。

スポーツを普及振興する上で時宜を得たすぐれた映画として広く各方面の関係の方々の御活用を期待したい。

□すいせんのことば

社団法人全国体育指導委員連合会長　本島　寛

この映画は、地域でスポーツクラブの組織を、これから作ろうとか、また進めていこうという方々にクラブのイメージを具体的に与えてくれる点で大変すぐれていると思います。

スポーツ教室や指導員講習会等、体育指導委員の方々の活動にも、効果的に利用できる映画と思い、すいせんいたします。

日本体育協会事務局長　千葉久三

この映画は、団地スポーツクラブをとりあげているが、地域スポーツクラブ推進のために欠かせないいくつかの条件を重点的に解説しているので、クラブ振興をめざしている体協関係者にとって、きわめて得るところの多い映画と思います。

□対象　成人（社会体育指導者、地域グループ指導者、地域団体リーダー、社会教育指導者、地域住民）
青年（勤労青少年、在学青少年、地域青少年団体リーダー）

□用途　市民生活（地域社会生活）

製作　株式会社 桜映画社　東京都新宿区西新宿1—22—1 スタンダードビル TEL 03(342)5768

配給

□利用方法

○小集団学習―青年学級、婦人学級、成人学校等における学習計画「コミュニティスポーツの振興をめざして」「コミュニティ活動としてスポーツをやろう」「明るく豊かな生活とスポーツ」等の教材。

○集団学習―社会教育、社会体育指導者、団体リーダー、町内会有志の研修会や講演会等に上映して、地域におけるスポーツ振興やスポーツを通してのコミュニティづくりに理解をすすめる。

○不特定多数対象映画会―公民館や公共施設における一般映画会に上映して、スポーツを通して明るく楽しい生活をきずくことをすすめる。

□あらすじ

阪神のベッドタウン神戸市垂水区に「団地スポーツ協会」が誕生した。団地人口は地域の半分、他所からの人ばかり。そんな中に三々五々スポーツを楽しむ人がいる。蓮沼さんの呼びかけで協会を作ることになったのである。この人たちが大いに利用していた矢元台公園が市民グランドになって、団地の人びとはスポーツ活動の拠点が奪われ大弱り。蓮沼さんたちは再三、市と交渉して、公園管理会を協会の中に作って清掃管理を引受けた。子どもも手伝って日曜奉仕で大清掃。月一回でも確実に使える処はないかと、学校や企業や公共の施設を交渉してみた。団地近くの高圧線下の三角地の空いているのをみつけ、ねばって県からようやく借りることができた。早速整地をして、廃品のポールやネットを譲り受け、大ゴミの中に見付けたロッカーを塗りかえ、自由に使える施設第一号ができた。矢元台公園に示した誠意は、月二回日曜日優先使用がかなえられた。協会野球部はこの権利を守るため、赤い吸殻入れのバケツをシンボルとして注意する。市長の好意のクラブハウスは部員の心の拠所。八年目の今15部2200人の大所帯。活動拠点も八方に広がり、学校や公共施設の交渉もしやすい。各部の自主活動は活発になる。

協会の方針は単位スポーツクラブ代表と事務局による役員会できめる。魅力的なプログラムは活動を精気づける。ゴルフ場の早期利用は健康的で経済的だと喜こばれ、帰りのゴルフ場破損補修は経営者から感謝される。

発行された機関紙「コミスポ」は会員相互の連帯感を強める。地域の運動具店やデパートと契約したスポーツ用品の割引販売も至って好評。

場所やプログラムに加えて人が大事。８年たった協会に新しい指導者が大勢育った。古田さんの奥さんはその一人。神戸市の体育指導委員でスポーツ指導員の有資格者。スポーツクラブの運営には世話役の他に実技指導者が必要。共にボランティアでボス的存在になってはならない。

年３回の「バレーの集い」も自分たちの条件に合わせた新ルール。子どものサインでおしっこタイムもあれば年令チーム対戦もある。テニス部の活動予定外は自由に会員に使えるコート。８年前はどっちを向いても知らない人ばかりだったこの広場に、スポーツを通して知り合いがふえ、親しい仲間ができた。

□製作スタッフ

企画・演出…村山英治
製作・脚本…福間順子
脚本・演出…山下秀雄
撮影……北川英雄
照明……石橋　等
解説……大沢嘉子
助監督……川田一郎
撮影助手……山屋恵司

□話し合いの要点

スポーツをやりたいと思う人はたくさんいるが、なかなか仲間や場所がみつからない。そんな時、スポーツクラブのような集りがあったらどうだろうか、と思う。地域スポーツクラブを検討して、自分たちに何か参考になったり、示唆を得ることがありはしないか？

(1)、このスポーツクラブにおける蓮沼さんたちの存在は、どんな意味をもっているだろうか。

(2)、協会の提案した「公園管理会」の発想についてどんな感じをもつか。

(3)、清掃に日曜奉仕で子どももまじえて頑張るこの意気込みは、どこから出てくるのだろうか。

(4)、スポーツにはまず場所だが、この確保に示す真剣さについて感じることは何か。

(5)、施設第一号誕生はその喜びと共に、何を喜ぶべきだろうか（地域住民の心のまとまり）。

(6)、この人たちが利用施設の確保に努力した特徴は何か。（皆が協力して示す誠意と努力で相手方にも利益をもたらす。既定の事実をこわさずに自分たちの希望を実現する。）

(5)、「赤い吸い殻入れ」はこの人たちの何を示しているだろうか。

(6)、協会のクラブハウスでの一杯のビールはどんな効果をもたらすだろうか。

(7)、責任体制の確立は施設借用の交渉をやりよくしたことで大事なポイント。

(8)、協会の方針決定の仕組を参考にしていこう。

(9)、ゴルフ部の早期利用と帰途ゴルフ場補修のアイディアはどう思うか。

(10)、機関紙「コミスポ」のはたす役割は何だろうか。

(11)、会員割引制をどう思うか？

(12)、世話役と技術の指導者のそれぞれのあり方を考えてみよう。

(13)、スポーツクラブ運営の必要条件は何か。

(14)、バレーの集いにおける新ルールから何を感ずるか。

(15)、協議会が大きく発展してきた理由は何か。個条書にあげてみよう。

(16)、スポーツクラブはこの地域に何をもたらしたか。

(17)、この団地の人々は発足前と今とでは印象がどう違うか。

(18)、このスポーツクラブの成長からわれわれは何を採るか。

□利用上の留意点

映画の型にこだわらず、地域にスポーツをすすめていくうえの心構やすすめ方のポイント、それが地域社会にもたらす影響などにも意をもちいる根拠を求めていきたい。この映画の精神（中心要素）をいかにわれに活かすかが肝心のところである。

桜スポーツ映画シリーズ

生活の中のスポーツ　カラー28分
コミュニティスポーツのすすめ
――スポーツ指導員を中心に　カラー23分
いつまでも若く美しく　カラー25分
スポーツの科学　カラー19分